

あなたの暮らしに雨水を

A. 家でできること

熊谷 直人

近年、台風や大雨が多くなっており、各地で内水氾濫や破堤など様々な被害が起こっている。

これも地球温暖化の影響で、これからさらに強い雨が降ると予想されている。

それに反し、福岡県は渇水が起きやすいところであり、過去のデータの傾向から、数年後に全く雨が降らない年が出てくると予想されている。

水は私たちにとってなくてはならないものであるが、時に水は私たちの脅威になる。

したがって、雨水をうまく活用し、また、雨水による被害をできるだけ最小限に抑える必要がある。

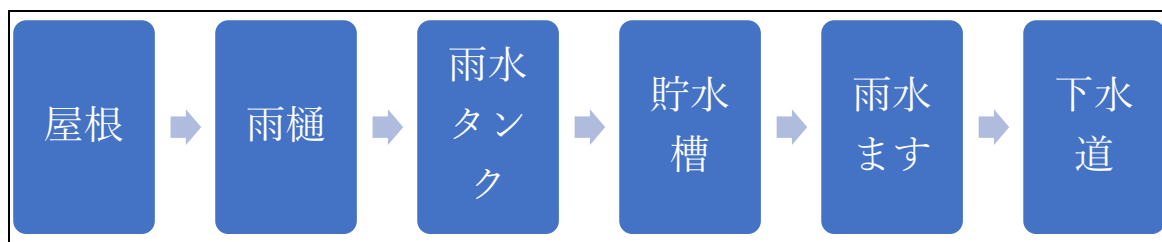
ここでは、雨と仲良く暮らすために、家でできることについて、私のアイデアを述べていく。

私は家ででも雨水活用は十分にできると考えている。実際、雨水は水道水の水質基準項目のほとんどを満たしている。したがって、生活する上で必要な水の半分以上を雨水で置き換えることが可能なのである。また、雨水を貯めることで、大雨の際も下水道に降った雨を直ちに下水道に流す必要はなく、それが河川への流出を抑え、内水氾濫が起こる可能性を低くすることができる。そこで、まず私が一番に注目したところは屋根に降った雨である。通常、屋根に降った雨は雨樋を通じ、そのまま下水道に流れていくが、私のアイデアとしてはその雨樋の途中に雨水タンクを取り付け、雨水を貯め、雨水タンクがある程度貯まると、家の地下にある貯水槽に流れ、雨水をさらに貯める。その貯水槽もある程度貯まると、その後、下水道に流れるところではあるが、下水道に流れる手前に雨水ますを設ける。そうすることによって、できるだけ雨水を下水道に流さないようにすることができる。雨水ますは地面に雨水を浸透させるが、家の地下に作った貯水槽も地面に浸透させるように作ることで、水害の軽減にも繋がる。また雨は雲から地上に達するまで空気中のほこりを含んでいるため、雨水をそのまま利用せず、第一に雨樋にスポンジを敷き詰め、大きなほこりやごみを取り除き、その後、雨水タンクから、貯水槽までの間にフィルターを取り付けることによって、さらに小さなほこりやごみを取り除くことができ、きれいになって貯水槽に貯まった水はトイレや洗濯、お風呂にも利用することができる。雨樋のスポンジは水を吸収する機能があるから、屋根に降った雨が

すぐに流れないという大雨の際の利点にもなる。そこでそのスポンジを貯水槽の周りにつけてみてはどうかと考えた。そうすることで大雨の際、貯水槽から直接地面に浸透させず、ある程度スポンジに水を吸収させ、その後、地面に浸透させることで、そのスポンジも水を貯めることが可能となる。敷地内に畑や雨庭を作って、水撒きスプリンクラーを設置し、水撒きスプリンクラーに使用する水を雨水で代用すれば、さらに雨水を活用することができる。雨庭は降った雨水を一時的に貯めてゆっくり地面に返すことができるため、洪水を抑制できる。最後に家の周りの敷地を芝生や植物にすることで、蒸発散により、降った雨をかえすことができるのである。

このように、雨水タンク、貯水槽、雨水ます、雨庭を作り、大雨の際もすぐに下水道に流さず、貯めることで河川への流出を抑え、雨水を生活に取り入れ、うまく活用することで雨水となかよく暮らすことができる。

雨水の経路



再利用する雨水の経路

